



IPv6 の設定

- [IPv6 設定の概要 \(1 ページ\)](#)
- [IPv6 タスク フローの設定 \(2 ページ\)](#)

IPv6 設定の概要

IM and Presence Service と Cisco Unified Communications Manager 間の接続に IPv4 を使用していても、IM and Presence Service では外部とのやりとりに IPv6 を使用できます。

IM and Presence Service ノードで次のいずれかの項目に IPv6 を設定する場合、ノードは着信する IPv4 パケットを受け入れず、自動的に IPv4 の使用に復帰することはありません。

- 外部データベースへの接続
- LDAP サーバへの接続
- Exchange サーバへの接続。
- フェデレーション展開

フェデレーションでは、IPv6 が有効な外国企業へのフェデレーション リンクをサポートする必要がある場合は、IM and Presence Service で IPv6 を有効にする必要があります。これは、IM and Presence Service ノードとフェデレーション企業間に ASA がインストールされている場合にも当てはまります。ASA は、IM and Presence Service ノードに対して透過的です。

コマンドライン インターフェイスを使用して IPv6 パラメータを設定する場合の詳細については <http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html> で『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』および『*Command Line Interface Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。

IPv6 タスク フローの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	IM and Presence サービスの Eth0 での IPv6 の有効化 (2 ページ)	クラスタ内の各 IM and Presence サービスノードの Eth0 ポートで IPv6 を有効にします。変更を適用するには、各ノードを再起動する必要があります。
ステップ 2	IPv6 エンタープライズ パラメータの有効化 (3 ページ)	Egh0 ポートで IPv6 を有効にしたら、IM and Presence Service クラスタの IPv6 エンタープライズ パラメータを有効にする必要があります。
ステップ 3	サービスの再起動 (3 ページ)	変更を適用するには、IM and Presence サービスを再起動する必要があります。
ステップ 4	IM and Presence ノードに IPv6 アドレスを割り当てます (4 ページ)	IM and Presence サービスノードに IPv6 アドレスを割り当てます。

IM and Presence サービスの Eth0 での IPv6 の有効化

クラスタの各 IM and Presence サービス ノードの Eth0 ポートで IPv6 を有効にするには、Cisco Unified IM and Presence Operating System 管理 GUI を使用します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified IM and Presence OS Administration で、**Settings > IP > Ethernet IPv6** を選択します。

ステップ 2 Ethernet IPv6 Configuration ウィンドウで、**IPv6 を有効にする** をチェックします。

ステップ 3 [アドレス ソース (Address Source)] を選択します。

- ルーター アドバタイズメント
- DHCP
- 手動入力

[手動入力 (Manual Entry)] を選択した場合は、**IPv6 アドレス**、**サブネットマスク**、および **デフォルト ゲートウェイ** の値を入力します。

ステップ 4 [リブートを使用した更新 (Update with Reboot)] チェックボックスをオンにします。

ヒント 予定されていたメンテナンス時間中などに、後で手動でノードを再起動する場合は、[リブートを使用した更新 (Update with Reboot)] チェックボックスはオンにしないでください。ただし、変更した内容はノードがリブートされるまで有効になりません。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

[リブートを使用した更新 (Update with Reboot)] チェックボックスをオンにした場合は、ノードがリブートされ、変更が適用されます。

次のタスク

[IPv6 エンタープライズパラメータの有効化 \(3 ページ\)](#)

IPv6 エンタープライズパラメータの有効化

IM and Presence Service クラスターの IPv6 エンタープライズパラメータを有効にするには [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] を使用します。

始める前に

[IM and Presence サービスの Eth0 での IPv6 の有効化 \(2 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

ステップ 2 [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウで、IPv6 パネルに対して [True] を選択します。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[サービスの再起動 \(3 ページ\)](#) 変更を適用するには。

サービスの再起動

IPv6 エンタープライズパラメータを有効にしてから、この手順を使用して IM and Presence サービスを再起動します。



ヒント [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] を使用してシステム再起動通知をモニタするには、[システム (System)]>[通知 (Notifications)] を選択します。

始める前に

[IPv6 エンタープライズ パラメータの有効化 \(3 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)]>[コントロールセンター-ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] リストから、サービスを再アクティブ化するノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3** **IM and Presence サービス (IM and Presence Services)** 領域で、[Cisco XCP Router] を選択します。
- ステップ 4** [再起動 (Restart)] をクリックします。
- ステップ 5** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [サービスのアクティベーション (Service Activation)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 6** **IM and Presence サービス** 領域で、次のサービスを選択します。
 - Cisco SIP Proxy
 - Cisco Presence Engine
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。

IM and Presence ノードに IPv6 アドレスを割り当てます

IM and Presence ノードに IPv6 アドレスを割り当てるには、Cisco Unified Communications Manager でこの手順を使用します。

始める前に

また、Cisco Unified OS の管理で IPv6 Eth0 ポートを有効にし、IPv6 エンタープライズパラメータを有効にする必要もあります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager のパブリッシャ ノードにログインします
- ステップ 2 Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [サーバ (Server)] を選択します。
- ステップ 3 次の作業のいずれかを実行します。
 - 新しいサーバを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - 既存のサーバを更新するには、編集したいサーバをクリックします。
- ステップ 4 新しいサーバを追加する場合は、**サーバの種類** ドロップダウンメニューから、**CUCMIM と プレゼンス** を選択して **次** をクリックします。
- ステップ 5 サーバーの **IPv6 アドレス** を入力します。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7 各 IM and Presence Service ノードで繰り返します。

IM and Presence サービスの Eth0 での IPv6 の無効化

IPv6 を無効にしたい場合、IPv6 を使用しないクラスタの IM and Presence サービス ノードの Eth0 ポートの IPv6 を無効にするために、**Cisco Unified IM and Presence Operating System** の管理 GUI を使用します。変更を適用するには、ノードを再起動する必要があります。



- (注) IPv6 を使用するクラスタのいずれのノードも使用しない場合は、IPv6 エンタープライズ パラメータがクラスタで無効になっていることを確認します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence OS Administration で、**設定 > IP > Ethernet IPv6** を選択します。
- ステップ 2 Ethernet IPv6 Configuration ウィンドウで、**IPv6 を有効にする** のチェックを外します。
- ステップ 3 [リポートを使用した更新 (Update with Reboot)] チェックボックスをオンにします。

ヒント 予定されていたメンテナンス時間中などに、後で手動でノードを再起動する場合は、[リポートを使用した更新 (Update with Reboot)] チェックボックスはオンにしないでください。ただし、変更した内容はノードがリポートされるまで有効になりません。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

[リブートを使用した更新 (Update with Reboot)] チェックボックスをオンにした場合は、ノードがリブートされ、変更が適用されます。
